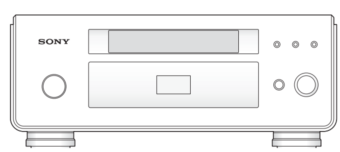
SONY

4-252-264-**08**(1)

スーパーオーディオ CD プレーヤー

SCD-DR1



取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告　電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

© 2004 Sony Corporation

この取扱説明書の使いかた

- 「接続」（4～10ページ）「設定」（11～13ページ）をご覧になって、準備を済ませてください。
- この取扱説明書では、主に本体での操作のしかたを説明しています。
- リモコンでは、本体と同じ表示のボタンを使って、同様に操作できます。
- この取扱説明書では、次の記号を使っています。

記号	意味
	この操作はリモコンにあるボタンでのみ可能です。
	知っていると便利な情報です。

主な特長

スーパーオーディオCDとは

- スーパーオーディオCDとは、現行のCDなどに用いられているPCM方式とは異なるDSD（ダイレクトストリームデジタル）方式で記録された、新しい高音質オーディオディスクの規格です。DSD方式は、CDの64倍にあたるサンプリング周波数で、1ビットの量子化の採用により、現行のCDをはるかに超える広い再生帯域と可聴帯域における十分なダイナミックレンジを確保し、原音をより忠実に再現します。
- スーパーオーディオCDには、2チャンネルステレオの他に、最大6つの独立したチャンネルを持つ「マルチチャンネル」のディスクも用意されています。スーパーオーディオCDのマルチチャンネルは、現在AVシステム等で主流となっている、いわゆる5.1チャンネルと同等のスピーカー配置を採用しています。

SCD-DR1の特長

SCD-DR1は、スーパーオーディオCDに刻まれた膨大な情報量を正確にピックアップし、もらさず伝達することを目標に開発したスーパーオーディオCDプレーヤーです。

■ i. LINKデジタル出力

i.LINK端子に対応機器を接続して、スーパーオーディオCDとCDのデジタル信号を出力できます。

■ 3系統のPCMデジタル出力

CDのPCMデジタル出力専用端子として、光、同軸、バランス各1系統、合計3系統を備えています。各端子ごとに出力のオン／オフを設定できます。

■ D/Aコンバーターとデジタル出力に独立したクロック —Twin Master Clock

D/Aコンバーターとデジタル出力回路にそれぞれ独立したマスタークロックを搭載し、使用する状況に合わせて最適なクロックを動作させることができます。

■ 外部クロック入力

外部のマスタークロック機器を接続し、より精度の高いクロック信号で本機を動作させることができ、音質向上につながります。

■ ベースユニット・リジッド・メカニズム
光学ベースユニットは、信号を読みとるレーザーピックアップとディスクの回転機構から構成されます。外部振動による音とびを防ぐため、サスペンション機構の上に取り付けられるのが一般的ですが、サスペンション構造が音質に影響を与えることも確認されています。
SCD-DR1では1台ごとに精密な切削加工を施した10kgを超えるメカベースに、光学ベースユニットをリジッドに取り付けています。これによりサスペンション機構に頼ることなく不要な振動を排し、正確な読み取りを実現しています。

■ DR/FBシャーシ
ESシリーズやRシリーズでのノウハウを生かし、10mmを超える厚みのアルミ材を切削して正確にシャーシを構成。外装部も肉厚なシャーシの一部とすることで、メカブロック、電気デバイスを最も理想的な位置に配置し、音質への悪影響を排除しています。

■ 3基のRコアトランスによる独立電源
アナログ、デジタル、サーボ部にそれぞれ独立したRコアトランスを搭載しています。各ステージでの電源の干渉を排除し、余裕ある電源供給が可能です。

目次

接続

この章では、お手持ちのオーディオ機器と本機の接続のしかたを説明します。
接続する前に必ずお読みください。

付属品を確認する

次の付属品がそろっていることを確認してください。

- i.LINKケーブル
  6ピン−6ピン（1）
  6ピン−4ピン（1）
- 電源コード（1）
- 電源プラグアダプター（1）
- リモコン（1）
- 単4乾電池（2）
- ソニーご相談窓口のご案内（1）
- 安全のために（1）
- 保証書（1）

以上の付属品がそろっていないときは、お買い上げ店、またはソニーサービス窓口にご連絡ください。

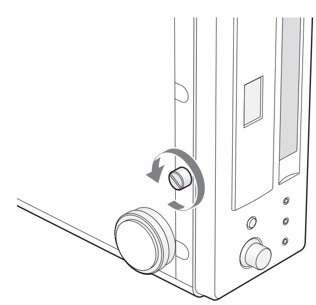
付属の電源コードについて

付属の電源コードは本機専用です。他の電気機器では使用できません。

本機には、オーディオ接続コード、デジタル接続コードは付属していません。お使いのシステムに合わせて、別途お買い求めください。

輸送ロックねじを取りはずす

輸送時にメカを固定するロックねじが本機底面に取り付けられています。使う前に、本機を静かに立てた状態で、ロックねじを左回りに回して取りはずしてください。固くはずしにくい場合は、コインなどを使用してください。
ロックねじが装着されていると、トレイが開きません。



取りはずしたロックねじは保管しておいてください。

ご注意

- 本機は重量があるため、作業は充分注意して行ってください。
- 必ず電源コードをはずした状態で取りはずしてください。

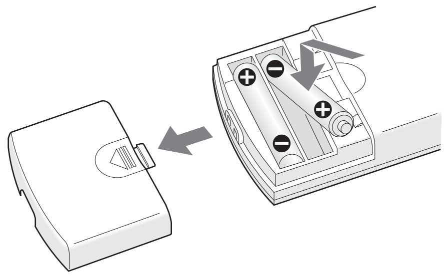
本機を輸送するときは

本機のトレイを閉じ、電源コードを抜いた状態で、ロックねじを右回りに回して取り付けてください。軽く手で締める程度のトルクで充分です。

リモコンに電池を入れる

付属の乾電池2個の⊕と⊖と、電池入れ内部の表示を合わせて入れます。

乾電池の寿命は約6か月です。
残りが少なくなると、リモコンで操作できる距離が短くなります。これを目安にして、2個とも新しい乾電池に交換します。



ご注意
乾電池の使いかたを誤ると、液もれや破裂のおそれがあります。次のことを必ず守ってください。
— ⊕と⊖の向きを正しく入れてください。
— 新しい乾電池と使った乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使わないでください。
— 乾電池は充電しないでください。
— 長い間リモコンを使わないときは、乾電池を取り出してください。
— 液もれしたときは、電池入れについた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。

設置時のご注意

本機は水平な場所に設置してください。本機はディスクスタビライザーを採用し、水平での安定したディスク回転を実現しています。
また、本機を立てた状態でのトレイの開閉およびディスクの再生は行わないでください。正規の動作をしないばかりでなく、ディスクに傷などを与える原因となります。必ず正しい設置状態で電源を入れ、再生を行ってください。

接続時のご注意

- 電源を必ず切ってから接続してください。
- すべての接続が完了するまで、電源コードは接続しないでください。
- プラグはしっかりと差し込んでください。不完全な接続は雑音の原因となります。

ANALOG OUT端子に接続する

本機のアナログ出力を使う場合、アンプなどのアナログライン入力端子と接続します。
別売りのオーディオ接続コードを使います。
接続コードの白いプラグはL（左）端子へ、赤いプラグはR（右）端子へ接続します。

オーディオ接続コード（別売り）

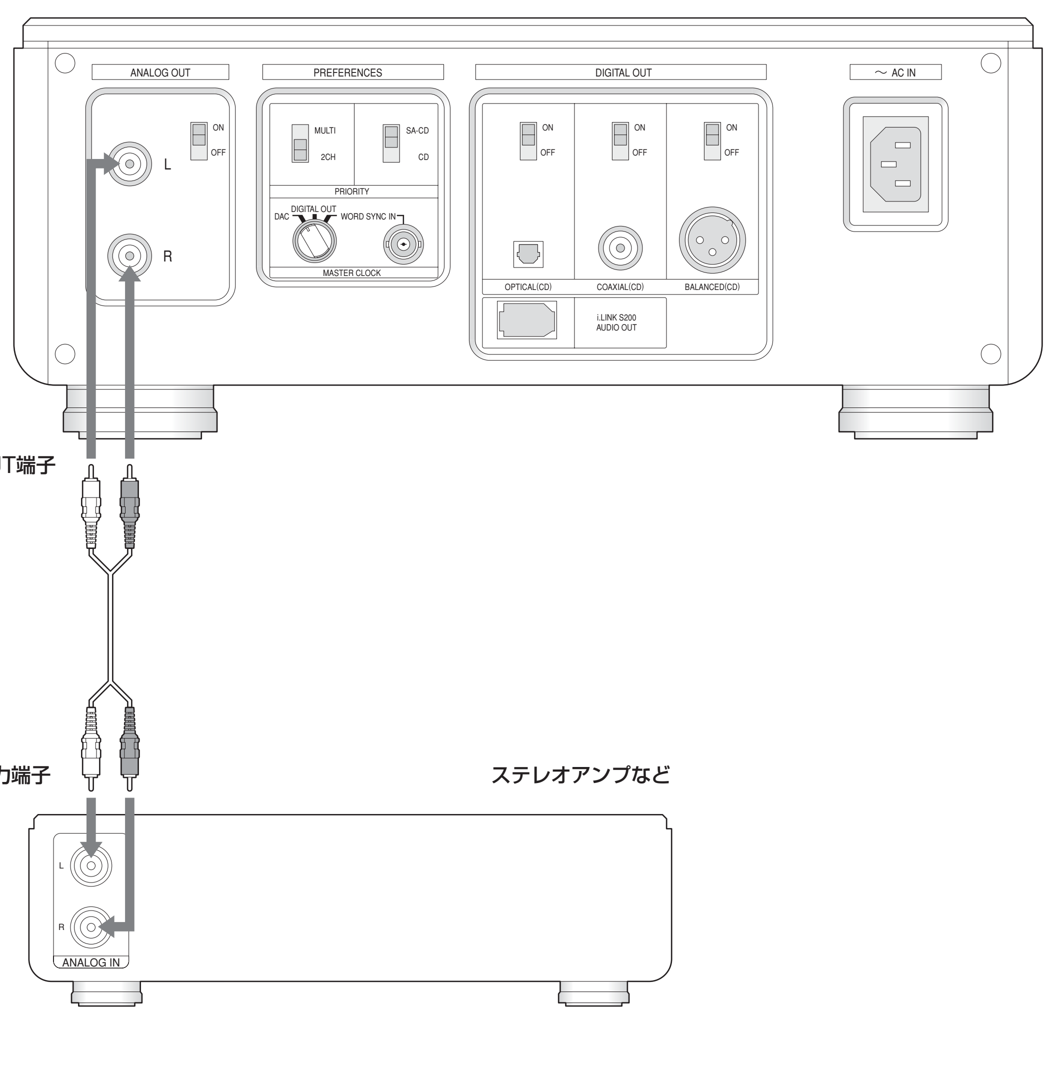


アナログ出力信号の種類

本機のアナログ出力は、CDおよび2チャンネルスーパーオーディオCDの信号を出力します。
マルチチャンネルスーパーオーディオCD信号は出力されません。また、マルチチャンネルスーパーオーディオCD信号の2チャンネルダウンミックス信号も出力されません。

ご注意

i.LINKランプが点灯しているときはi.LINK端子からの出力が優先するため、ANALOG OUT端子からは信号が出力されません。

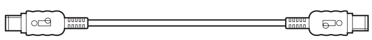


DIGITAL OUT端子に接続する

i.LINK端子に接続する

付属のi.LINKケーブルは片側がロック式のコネクターになっています。ロック式側のコネクターを本機に接続してください。
本機のi.LINK端子は6ピンです。接続する機器のi.LINK端子の形状に合わせて付属のi.LINKケーブルをお使いください。

i.LINKケーブル（付属）



ご注意

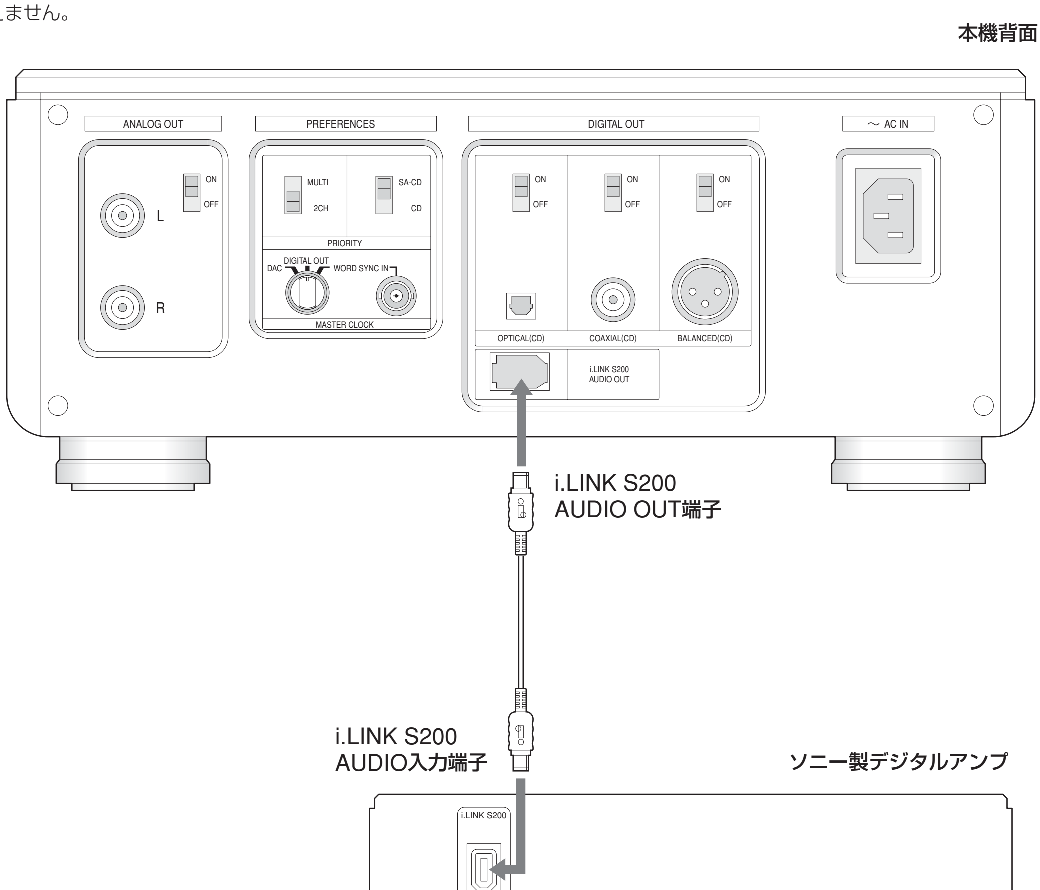
- 本機のi.LINK端子は、i.LINK端子を備えたソニー製デジタルアンプとの接続に対応しています。その他の機器とi.LINK接続した場合は正常に動作しないことがあります。他社製品をご購入の際は、必ず事前に接続を確認してください。
- i.LINK端子に金属が触れるとショートし、接続した機器にトラブルが生じる場合があります。
- プラグはしっかりと差し込んでください。不完全な接続は誤動作の原因となります。
- 本機が対応している信号については、28ページをご覧ください。
- i.LINK対応機器の中には、コピー・プロテクション技術に対応し、暗号化した信号を扱う機器があります。本機はDTLAのコピー・プロテクション技術（Revision 1.2）に対応しています。
- i.LINK端子の4ピン−6ピン変換アダプターは信号の送受信が保証できないため、使えません。

i.LINKでの通信が確立するには

i.LINK接続では、入力を選択してから通信が確立するまで数秒間かかります。これは接続する機器が相互認証を行うためです。通信が確立するとi.LINKランプが点灯します。

ご注意

i.LINKランプが点灯しているときはi.LINK端子からの出力が優先するため、他の端子からは信号が出力されません。



次のページにつづく

H.A.T.S.（High quality digital Audio Transmission System）機能とは

H.A.T.S.とは、一部のi.LINK入力機器（TA-DA9000ESなど）に装備された機能です。i.LINKから入力されたデジタルオーディオ信号をバッファに蓄え、精度の高いタイミングでバッファから信号を読み出してアナログ信号に変換します。このため、デジタルオーディオ信号転送時に生じるジッター（信号を読み取るタイミングの時間軸のゆれ）の影響を回避できます。詳しくはH.A.T.S.機能対応機器の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- H.A.T.S.機能の性質により、再生機の操作（例：再生ボタンを押す、停止ボタンを押す、一時停止ボタンを押す、など）をしてから実際の動作まで少し時間の遅れがあります。また、CDとスーパーオーディオCDとでは遅れる時間が異なる場合があります。
- H.A.T.S.機能は、H.A.T.S.機能に対応する機器にのみ働きます。
- H.A.T.S.機能は、1台の入力機器から選ばれているときに働きます。これは、プログラムソースからのデジタル音声信号の転送速度を入力機器が調節するのに対して、i.LINKの経路内では、適切な信号転送のため、ある機器からのオーディオ信号を受け取る機器は1つだけ、と決まっているからです。

著作権について

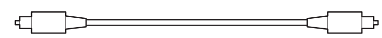
著作権保護に対応したi.LINK対応機器には、デジタルデータのコピー・プロテクション技術が採用されています。
この技術のひとつは、DTLA（The Digital Transmission Licensing Administrator）というデジタル伝送における著作権保護技術の管理運用団体から許可を受けているものです。このDTLAのコピー・プロテクション技術を搭載している機器間では、コピーが制限されている映像／音声／データにおいて、i.LINKでのデジタルコピーができない場合があります。
また、DTLAのコピー・プロテクション技術を搭載している機器と搭載していない機器との間では、i.LINKでのデジタルの映像／音声／データのやりとりができない場合があります。

- i.LINKは、IEEE1394-1995とIEEE1394a-2000を示す呼称です。i.LINKとi.LINKロゴ "i" は、ソニー株式会社の商標です。

OPTICAL（CD）端子に接続する

光デジタル入力端子のある機器と接続します。
別売りの光デジタル接続コードを使います。
端子のキャップを抜き、光デジタル接続コードのプラグをカチッと音がするまでまっすぐに差し込みます。

光デジタル接続コード（別売り）



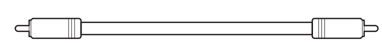
ご注意

- OPTICAL（CD）端子からはCDのデジタル信号のみ出力されます。スーパーオーディオCDのデジタル信号は出力されません。
- i.LINKランプが点灯しているときはi.LINK端子からの出力が優先するため、OPTICAL（CD）端子からは出力されません。

COAXIAL（CD）端子に接続する

同軸デジタル入力端子のある機器と接続します。
別売りの同軸デジタル接続コードを使います。

同軸デジタル接続コード（別売り）



ご注意

- COAXIAL（CD）端子からはCDのデジタル信号のみ出力されます。スーパーオーディオCDのデジタル信号は出力されません。
- i.LINKランプが点灯しているときはi.LINK端子からの出力が優先するため、COAXIAL（CD）端子からは出力されません。

BALANCED（CD）端子に接続する

バランスデジタル入力端子のある機器と接続します。
別売りのバランスデジタル接続コードを使います。

バランスデジタル接続コード（別売り）

本機側 **入力機器側**



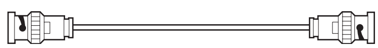
ご注意

- BALANCED（CD）端子からはCDのデジタル信号のみ出力されます。スーパーオーディオCDのデジタル信号は出力されません。
- 業務用機器（AES/EBU端子）とは信号の互換性がないため、接続しても信号が入力されません。
- i.LINKランプが点灯しているときはi.LINK端子からの出力が優先するため、BALANCED（CD）端子からは出力されません。

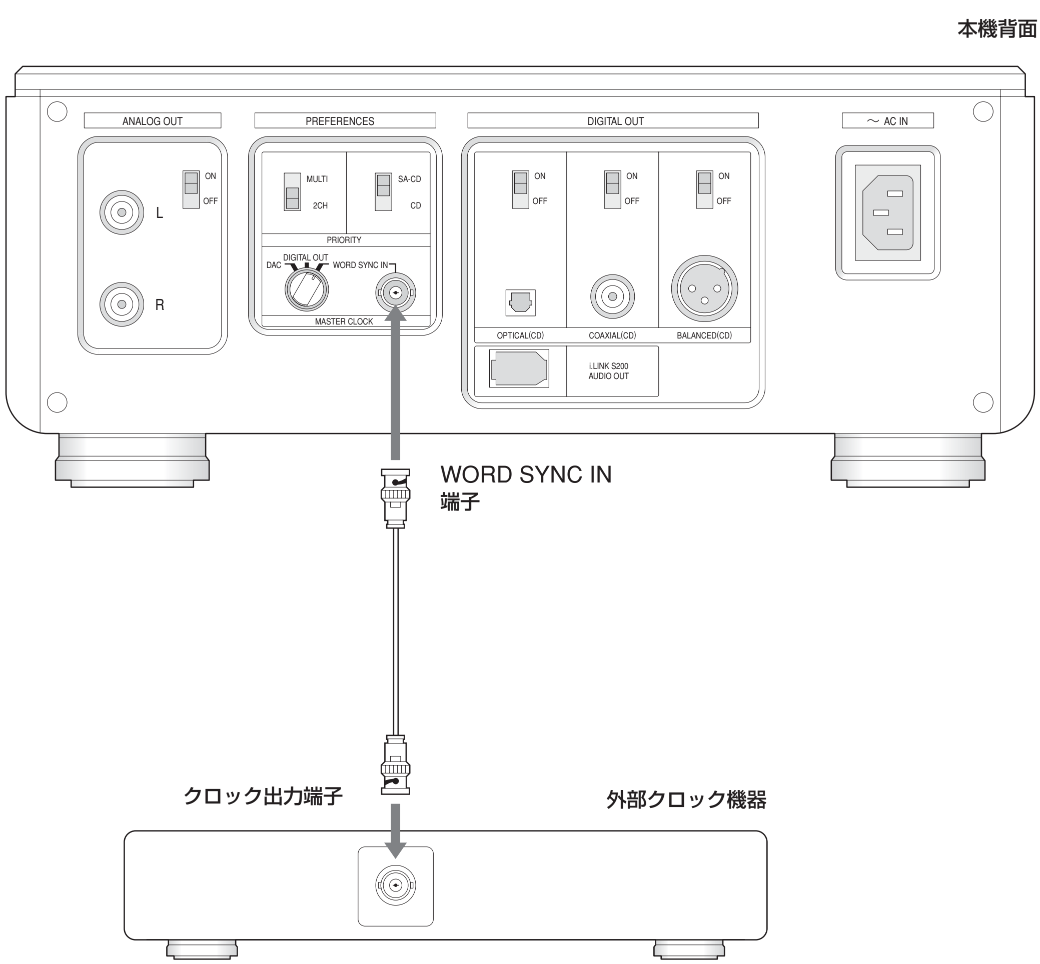
外部クロック機器を接続する

外部クロック機器を本機のWORD SYNC IN端子に接続して、マスタークロック信号を入力できます。
別売りのBNC端子の同軸デジタル接続コードを使います。
入力できるクロック信号は、44.1kHzのTTLレベル矩形波です。

BNC同軸デジタル接続コード（別売り）



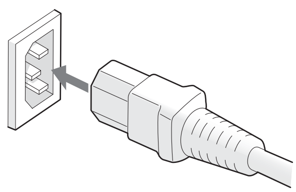
ご注意
外部クロックを有効にするには、背面のMASTER CLOCK切換スイッチをWORD SYNC INに設定する必要があります。詳しくは13ページをご覧ください。



電源コードを接続する

次のことを確認してから、電源コードを接続してください。
- すべてのケーブルを接続する。
- POWERスイッチがオフになっている。

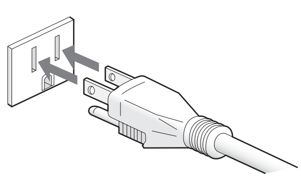
付属の電源コードを本体のAC IN端子につないでから、壁のコンセントにつなぎます。



電源コードのプラグについて

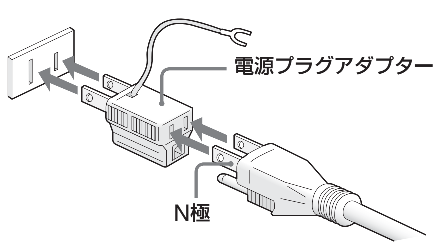
本機は、3極プラグの電源コードになっています。3極プラグが使えないときは、接続するコンセントの形状に合わせて、付属の電源プラグアダプターか市販のプラグアダプターを使ってください。

3極コンセントの場合



2極コンセントの場合

- **コンセントの差し込み口に長短の違いがある場合：**
  2つのブレードの幅が違う付属の電源プラグアダプターを使ってください。



- **コンセントの差し込み口が同じ長さの場合：**
  市販のプラグアダプターを使ってください。
  このとき市販の検電ドライバーなどを使って差し込み穴の極性をチェックできます。検電ドライバーを差し込んでネオンランプが点灯しない方がアース側です。上の図の「N側」のブレードをアース側に差し込みます。

ご注意

本機の電源コードはなるべく壁のコンセントに接続してください。
テーブルタップを使う場合は、容量に余裕のあるテーブルタップを使ってください。

ノイズ（ハム）が出るときは

アース回路の電位差が原因となっている場合があります*。
このときは、付属の電源プラグアダプターを使ったうえで、アース線をどこにも接続しないでお使いください。

* 家庭用の電源コンセントのアース（グラウンド）は通常安全アース用ですが、コンセントごとに微小な電位差がある場合があります。そのため付属の3極コードをそのまま使うと、かえって音質が劣化したりブーンというハムノイズが出ることがあります。

設定

この章では、出力信号や優先設定を
切りली換える方法について説明します。

出力のオン／オフを設定する

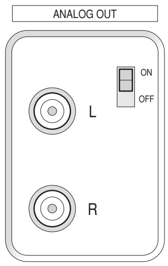
本機はi.LINKランプが点灯するとi.LINK機能オンとなり、i.LINK端子から優先的に信号が出力されます。i.LINK機能オフのときは、以下のように出力端子ごとに信号出力のオン／オフを設定できます。

ご注意

- i.LINK機能オンのときはi.LINK端子からの出力が優先するため、他の端子からは信号が出力されません。
- i.LINK機能オフのときは、すべての出力をオフにすると信号は出力されません。この状態でディスクを再生すると、本体表示窓に「C 15」と表示されます（27ページ）。
- i.LINK機能オフのときにスーパーオーディオCDを再生すると、アナログ出力からのみ信号が出力されます。このときにアナログ出力をオフにすると、本体表示窓に「C 15」と表示されます（27ページ）。

ANALOG OUTを設定する

アナログ出力を使うときはスイッチをONにします。

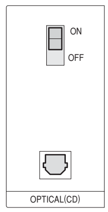


次のページにつづく

設定

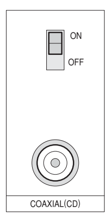
OPTICAL（CD）を設定する

光デジタル出力を使うときはスイッチをONにします。



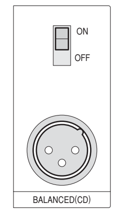
COAXIAL（CD）を設定する

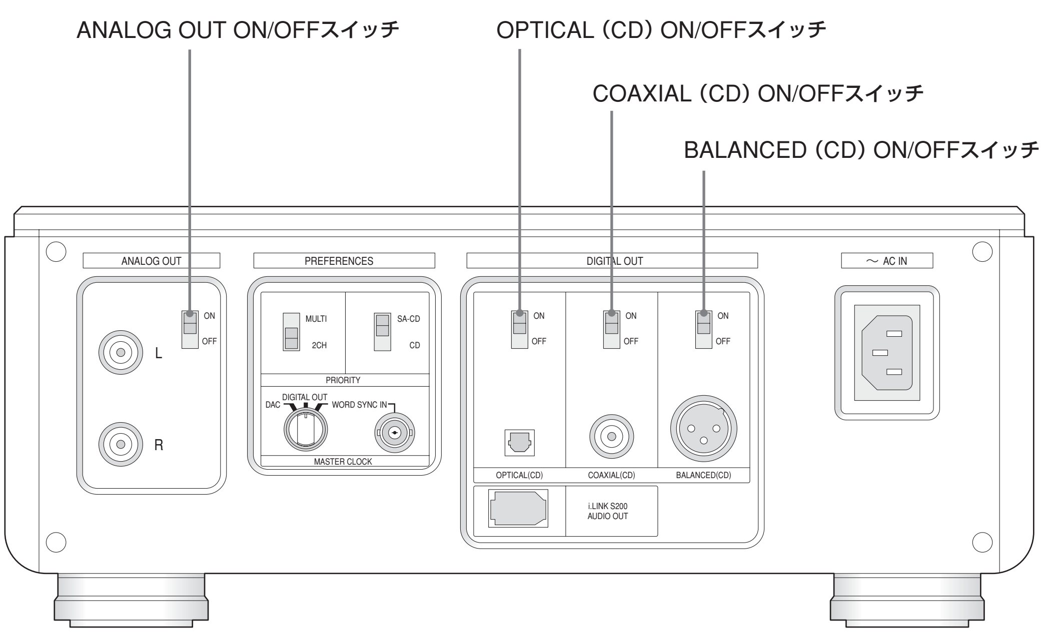
同軸デジタル出力を使うときはスイッチをONにします。



BALANCED（CD）を設定する

バランスデジタル出力を使うときはスイッチをONにします。

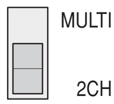




優先設定を切り換える

優先チャンネルを設定する（スーパーオーディオCD）

2チャンネル＋マルチチャンネルスーパーオーディオCDディスクを挿入したときに、優先して再生するチャンネルを設定します。
2チャンネルエリアを優先する場合はPRIORITY MULTI/2CHスイッチを2CH側に、マルチチャンネルエリアを優先する場合はMULTI側にします。

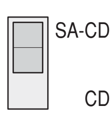


ご注意

- マルチチャンネルエリアの信号はi.LINK端子からのみ出力されます。アナログ出力端子からは出力されません。i.LINK機能オフのときに2チャンネル＋マルチチャンネルスーパーオーディオCDディスクを挿入すると、設定にかかわらず自動的に2チャンネルエリアが再生されます。
- 2チャンネル＋マルチチャンネルエリアが記録されているスーパーオーディオCDのハイブリッドディスクで、HDレイヤー（スーパーオーディオCD）→CDレイヤー→HDレイヤーの順に再生すると、HDレイヤー内のエリアは、最初に再生したエリアに戻って再生されます。

優先レイヤーを設定する（スーパーオーディオCD）

スーパーオーディオCDのハイブリッドディスクを挿入したときに、優先して再生するレイヤーを設定します。
HDレイヤー（スーパーオーディオCD）を優先する場合はPRIORITY SA-CD/CDスイッチをSA-CD側に、CDレイヤーを優先する場合はCD側にします。



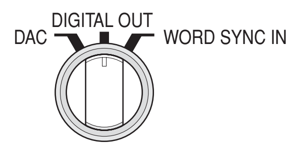
マスタークロックを切り換える

本機はマスタークロックを2基搭載しています。D/Aコンバーター用とデジタル出力回路用で、どちらを基準にして動作させるかを設定できます。また、外部クロック入力を備え、外部クロック機器を接続して動作させることもできます。
使用状況に応じて、MASTER CLOCK切換スイッチを以下のポジションに切り換えてください。

本機をアナログ出力で使う場合
DACにします。

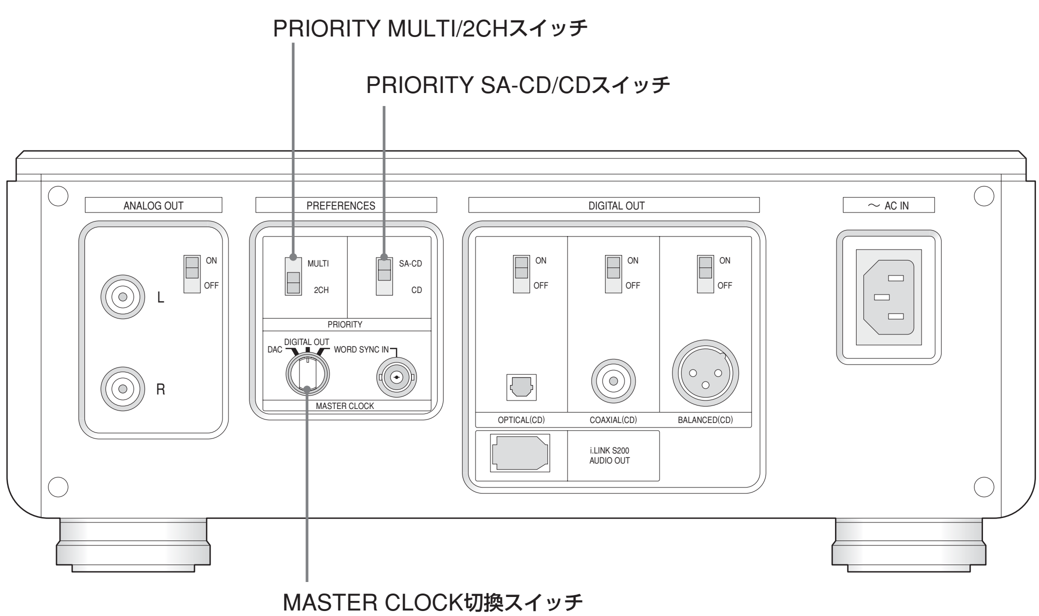
デジタル出力で使う場合
DIGITAL OUTにします。

外部クロック機器を使う場合
WORD SYNC INにします。



ご注意

電源をオフにした状態で切り換えてください。その後電源をオンにすると、指定したマスタークロックに切り換わります。
電源がオンの状態で切り換えても、もう1度電源を入れ直すまでマスタークロックは切り換わりません。



各部の名前と基本操作

この章では、各部の名前と基本機能、基本操作を説明します。

本体前面

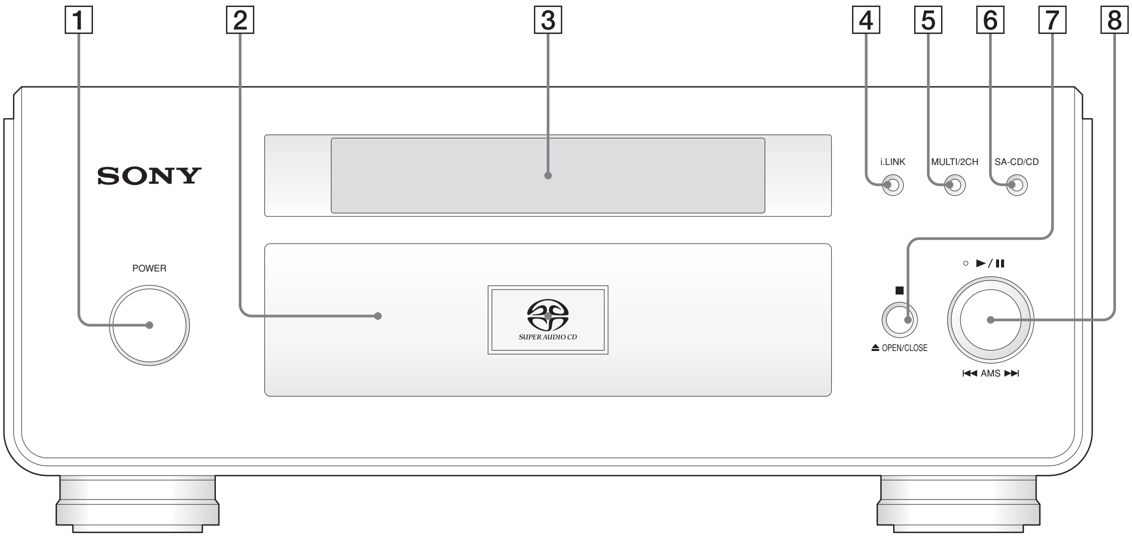
1 POWER（パワー）スイッチ
本機の電源をオン／オフします。

2 **ディスクトレイ**（21ページ）
開閉は⏏ボタンで行います。

3 **表示窓**（18ページ）
情報を表示します。
リモコン受光部も兼ねています。

4 **i.LINKボタン**（21ページ）
i.LINK機能のオン／オフを切り換えます。

i.LINKランプ（21ページ）
i.LINK機能の使用中に点灯します。



5 **MULTI/2CHボタン**（21ページ）
i.LINK機能オンで2チャンネル＋マルチチャンネルスーパーオーディオCDディスクを再生時に、2チャンネル再生とマルチチャンネル再生を切り換えられます。
ディスク挿入時に優先して再生するチャンネルは、本体背面のPRIORITY MULTI/2CHスイッチ（13ページ）で設定します。

MULTI/2CHランプ
マルチチャンネル選択時に点灯します。

6 **SA-CD/CDボタン**（21ページ）
スーパーオーディオCDのハイブリッドディスクを再生するときに、HD（スーパーオーディオCD）レイヤーとCDレイヤーを切り換えられます。
ディスク挿入時に優先して再生するレイヤーは、本体背面のPRIORITY SA-CD/CDスイッチ（13ページ）で設定します。

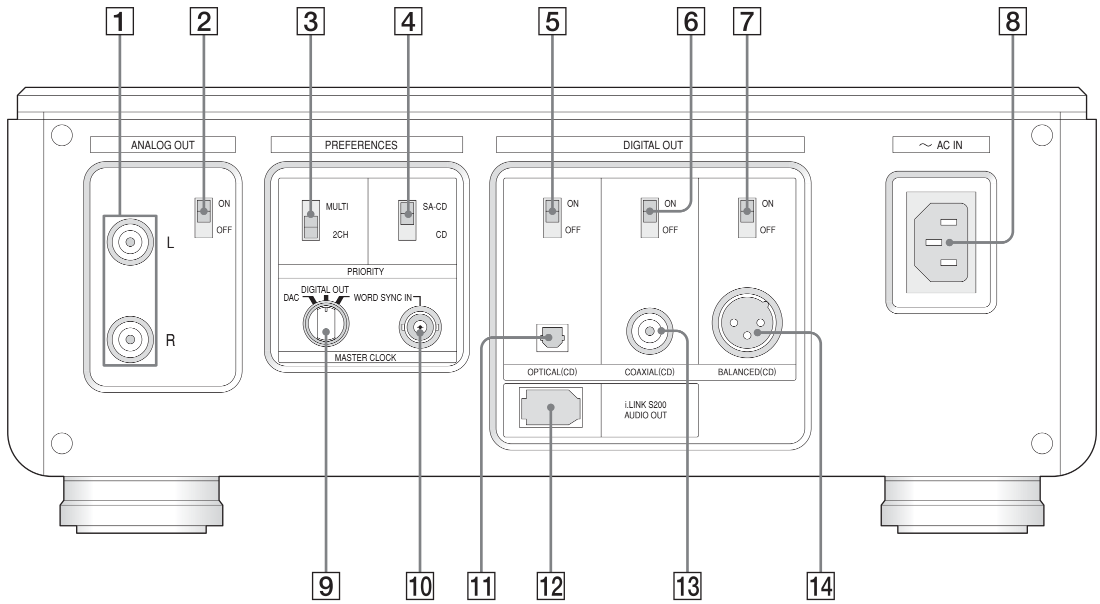
SA-CD/CDランプ
HD（スーパーオーディオCD）レイヤー選択時に点灯します。

7 **■・⏏OPEN/CLOSEボタン**（21ページ）
再生中に押すと停止します。
停止中に押すとディスクトレイを開閉します。

8 **►/❚❚・⏮AMS⏭ダイヤル（AMS:頭出し）**
（21ページ）
（以降「ジョグダイヤル」と記載します。）
押すたびに再生と一時停止を切り換えます。
ジョグダイヤルを左に回すと前の曲、右に回すと次の曲の頭出しを行います。

►/❚❚ランプ
再生中は点灯します。
一時停止中は点滅します。

本体後面



1 **ANALOG OUT端子**（6ページ）
オーディオ接続コードで他の機器（ステレオ／2チャンネル）と接続します。

2 **ANALOG OUT ON/OFFスイッチ**（11ページ）
アナログ出力のオン／オフを切り換えます。

3 **PRIORITY MULTI/2CHスイッチ**（13ページ）
2チャンネル＋マルチチャンネルスーパーオーディオCDディスク挿入時に、優先して再生するチャンネルを設定します。

4 **PRIORITY SA-CD/CDスイッチ**（13ページ）
スーパーオーディオCDのハイブリッドディスク挿入時に、優先して再生するレイヤーを設定します。

5 **DIGITAL OUT OPTICAL（CD）ON/OFFスイッチ**（12ページ）
光デジタル出力のオン／オフを切り換えます。

6 **DIGITAL OUT COAXIAL（CD）ON/OFFスイッチ**（12ページ）
同軸デジタル出力のオン／オフを切り換えます。

7 **DIGITAL OUT BALANCED（CD）ON/OFFスイッチ**（12ページ）
バランスデジタル出力のオン／オフを切り換えます。

8 **AC IN端子**（10ページ）
付属の電源コードを接続します。

9 **MASTER CLOCK 切換スイッチ**（13ページ）
動作させるマスタークロックを選びます。
本機をアナログ出力で使う場合はDAC、デジタル出力で使う場合はDIGITAL OUTの位置にすることをおすすめします。外部クロック機器を接続して使う場合はWORD SYNC INにします。

10 **WORD SYNC IN端子**（9ページ）
BNCデジタル接続コードで外部マスタークロック機器と接続します。

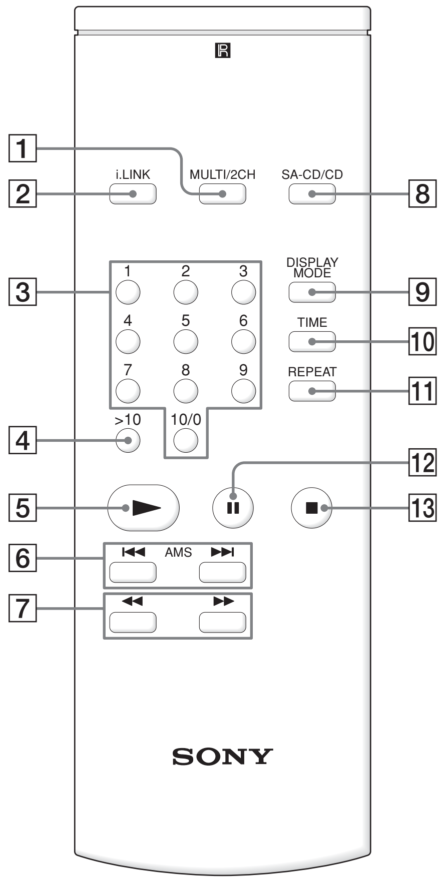
11 **DIGITAL（CD）OUT OPTICAL端子**（8ページ）
光デジタル接続コードで他の機器と接続します。

12 **i.LINK S200 AUDIO OUT端子**（7ページ）
i.LINKケーブルで対応機器と接続します。

13 **DIGITAL（CD）OUT COAXIAL端子**（8ページ）
同軸デジタル接続コードで他の機器と接続します。

14 **DIGITAL（CD）OUT BALANCED端子**（8ページ）
バランスデジタル接続コードで他の機器と接続します。

リモコン



1 **MULTI/2CHボタン**（21ページ）
2チャンネル＋マルチチャンネルスーパーオーディオCDディスク（20ページ）再生時に、マルチチャンネル再生と2チャンネル再生を切り換えます。

2 **i.LINKボタン**（21ページ）
i.LINK機能のオン／オフを切り換えます。

3 **数字ボタン**（22ページ）
ダイレクト選曲を行います。

4 **>10 ボタン**（22ページ）
曲番11以上を探すときに使います。

5 **►ボタン**（21ページ）
再生を始めます。

6 **AMS⏮/⏭（AMS:頭出し）ボタン**（21ページ）
曲の頭出しを行います。

7 **◀◀/▶▶ボタン**（23ページ）
曲の中の聞きたい部分を探すときに使います。

8 **SA-CD/CDボタン**（21ページ）
聞くスーパーオーディオCDディスクのレイヤーに合わせて切り換えます。

9 **DISPLAY MODEボタン**（18ページ）
表示を消して再生することができます。

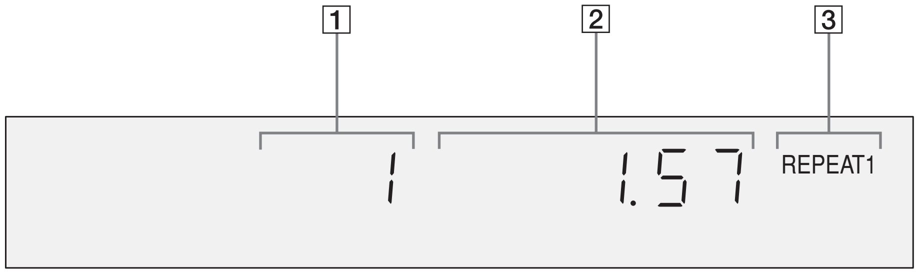
10 **TIMEボタン**
押すたびに、曲の再生時間や曲の残り時間、ディスク全体の残り時間などを表示します。

11 **REPEATボタン**（23ページ）
ディスクの全曲または1曲だけを繰り返して再生します。

12 **❚❚ボタン**（21ページ）
再生を一時停止します。

13 **■ボタン**（21ページ）
再生を停止します。

本体表示窓



1 **トラック表示**
再生中は曲番を表示します。

2 **時間表示**
再生中は曲の経過時間を表示します。
リモコンのTIMEボタンを押すたびに、「再生曲の残り時間」→「ディスク全体の残り時間」→「曲の経過時間」の順に表示が切り換わります。

3 **REPEAT表示**（23ページ）
1曲繰り返し再生時は「REPEAT1」、全曲繰り返し再生時は「REPEAT」と表示されます。
繰り返し再生は、リモコンのREPEATボタンで切り換えます。

表示を消す

再生中にDISPLAY MODEボタンを押すたびに、表示がついたり消えたりします。
ただし、表示が消えるのは再生中のみで、再生を止めたり、一時停止したりすると表示がつきます。再び再生を始めると表示は消えます。
停止しているときにDISPLAY MODEボタンを押すと、ONまたはOFFと表示され、現在の表示モードを確認できます。

ON：**表示する**

OFF：**表示を消す**

表示窓の明るさを調整する

表示窓の明るさを4段階に調整できます。
リモコンのSTOPボタンを押しながら、本体のジョグダイヤルを回します。
明るくするときはジョグダイヤルを右側へ、暗くするときは左側へ回します。
電源を切っても設定は保存されます。

ご注意
リモコンのAMS⏮/⏭ボタンでは調整できません。

ディスクを再生する

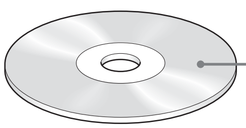
この章では、さまざまな再生のしかたを説明しています。

本機で再生できるディスクについて

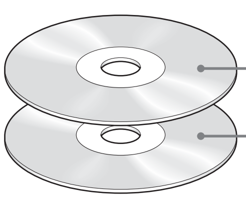
本機では次にあげるディスクの再生が可能です。ディスクの種類によってSA-CD/CDボタンや、MULTI/2CHボタンを押して再生したい場所を選びます。
なお、実際のディスクは以下の分類の、レイヤー構成とエリア構成の各々が組み合わさったものとなります。

ディスクのレイヤー（層）の構成による分類

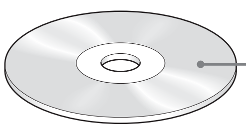
スーパーオーディオCD（シングルレイヤーディスク）
HD（ハイデンシティ）レイヤー（スーパーオーディオCD用の高密度信号層）単層のみのディスクです。
このディスクでは自動的にスーパーオーディオCDの再生が選ばれます。



スーパーオーディオCD（デュアルレイヤーディスク）
長時間再生を可能にした、HDレイヤーが2層になっているディスクです。
このディスクでは自動的にスーパーオーディオCDの再生が選ばれます。（2層構成ですが片面読み出しのため、ディスクを裏返す必要はありません。）



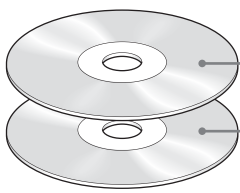
CD
現行フォーマットのCDディスクです。
このディスクでは自動的にCDの再生が選ばれます。



次のページにつづく

スーパーオーディオCD+CD（ハイブリッドディスク）

HDレイヤーとCDレイヤーとが2層になったディスクです。
聞きたいレイヤーを、SA-CD/CDボタンを押して選びます。（2層構成ですが片面読み出しのため、ディスクを裏返す必要はありません。）
また、CDレイヤーの内容は通常のCDプレーヤーでも再生できます。



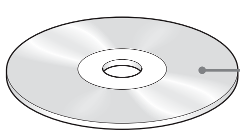
ディスク挿入後最初に再生するレイヤー（HDレイヤー／CDレイヤー）を決めるには

「優先レイヤーを設定する（スーパーオーディオCD）」（13ページ）をご覧ください。

スーパーオーディオCDディスクのチャンネルのエリア構成による分類

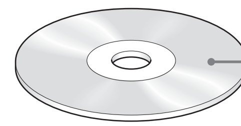
2チャンネルスーパーオーディオCDディスク

スーパーオーディオCDのHDレイヤーに2チャンネルのエリアのみが記録されているディスクです。
このディスクでは自動的に2チャンネルのエリアの再生が選ばれます。



マルチチャンネルスーパーオーディオCDディスク

スーパーオーディオCDのHDレイヤーにマルチチャンネルのエリアのみが記録されているディスクです。
このディスクでは自動的にマルチチャンネルのエリアの再生が選ばれます。

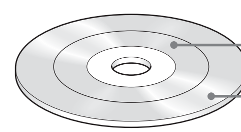


ご注意

マルチチャンネルのエリアはi.LINK機能オンのときにのみ再生できます。

2チャンネル＋マルチチャンネルスーパーオーディオCDディスク

スーパーオーディオCDのHDレイヤーに2チャンネルのエリアとマルチチャンネルのエリアの両方が記録されているディスクです。
お聞きになりたいエリアは、MULTI/2CHボタンを押して選びます。



ご注意

マルチチャンネルのエリアはi.LINK機能オンのときにのみ再生できます。

ディスク挿入後最初に再生するエリア（マルチ／2CH）を決めるには

「優先チャンネルを設定する（スーパーオーディオCD）」（13ページ）をご覧ください。

本機で再生できないディスクについて

以下のディスクは本機では再生できません。
- CD-ROM
- DVD

など

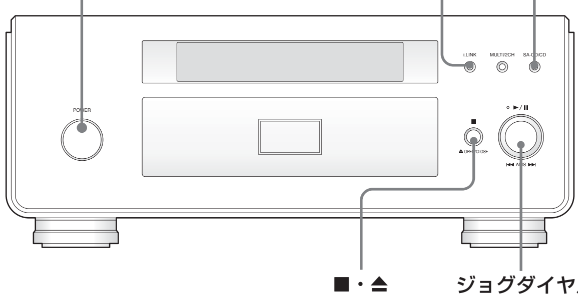
エラーメッセージ「Err 01」（27ページ）や
「– –（NO DISC）」が表示されたり、再生しても音が出なかったりします。

ご注意

8cmディスクはローディングできないため再生できません。

再生する

ここでは、ふつうの再生のしかたと再生中の基本操作について説明します。
i.LINKケーブルをつないでいるときは（7ページ）、i.LINK機能をオンにしてデジタル接続で音楽を再生できます。



1 **アンプの電源を入れる。アンプのボリュームを最小にする。**

2 **アンプの入力切り換えで本機を接続している機器のファンクションを選ぶ。**

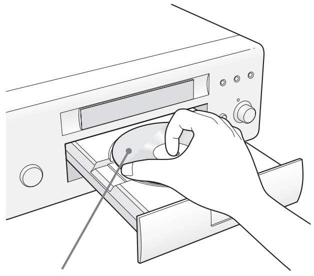
3 **本機のPOWERスイッチを押して電源を入れる。**

4 **i.LINK機能のオン／オフを切り換える。**

i.LINK S200 AUDIO OUT端子からの音を聞くとき（i.LINK機能オン）
i.LINKボタンを押して、i.LINKランプを点灯させます。

ANALOG OUT端子、DIGITAL（CD）OUT端子からの音を聞くとき（i.LINK機能オフ）
i.LINKボタンを押して、i.LINKランプを消灯させます。

5 **■・⏏ボタンを押してディスクトレイを開け、ディスクをくぼみに合わせて置く。**
ディスクを正しく置かないと、本機が動作しません。また、ディスクの破損や傷の原因となりますのでご注意ください。



6 **ジョグダイヤルを押す。**
1曲目から再生が始まります。
途中の曲から再生を始めたいときは、ジョグダイヤルを押す前にジョグダイヤルを回し、曲番を選んでおいてください。

ジョグダイヤルを押したあと、「- - - - -」が表示されたときは
アナログ出力を「ON」に設定している場合（11ページ）、高音質で再生するため、アナログ回路を安定させています。
「- - - - -」が消えるまで待つと（約10秒）、再生が始まります。デジタル接続で再生するときは、アナログ出力設定を「OFF」に切り換えてください（11ページ）。回路を安定させる必要がなくなりますので、再生が早く始まります。

7 **アンプで音量を調節する。**

再生中の基本操作

操作	使うボタン
再生を止める	■・⏏ボタン
再生を一時停止する	ジョグダイヤルを押す
一時停止した再生を再開する	ジョグダイヤルを押す
1曲先へ進む	ジョグダイヤルを右に回す
再生中の曲の頭または1曲前に戻る	ジョグダイヤルを左に回す
ディスクを取り出す	■・⏏ボタン

ハイブリッドディスク（20ページ）再生時に聞きたいレイヤーを切り換えるには
SA-CD/CDボタンを押して「SA-CD」か「CD」を選んでください。

2チャンネル＋マルチチャンネルスーパーオーディオCDディスク（20ページ）再生時に聞きたいエリアを切り換えるには
MULTI/2CHボタンを押して「MULTI CH」か「2CH」を選んでください。

ご注意
- 再生時には、ボリュームを最小の状態から徐々に上げてください。本機で再生される音楽信号には可聴帯域外の成分が含まれており、スピーカーや耳にダメージを与えることがあります。
- 再生中にエリアまたはレイヤーを切り換えると、同じ場所から再生されるのではなく、同一トラックの頭から再生されます。ただし、ディスクによっては1曲目から再生される場合があります。
- 再生中にレイヤーを切り換えると、スーパーオーディオCDに比べ、CDの音量レベルが若干大きく再生されます。本機では、高音質での再生を行うため、スーパーオーディオCDとCDの出力レベルの補正を行っておりません。このときは、アンプなどでボリュームを調整してください。また、出力レベルについては「主な仕様」（28ページ）をご確認ください。

次のページにつづく

i.LINK機能を使って再生するときのご注意

i.LINK機能を使って再生するときは、i.LINKボタンを押して、i.LINKランプを点灯させます。

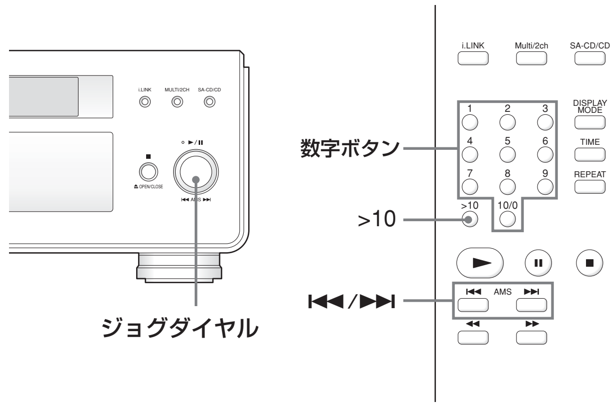
- 相手機器のi.LINK機能が準備されていないときに（例：TA-DR1のi.LINKランプが消灯している）ジョグダイヤルを押すと、曲の頭が切れる場合があります。
- i.LINK機能をオンまたはオフに切り換えるときは、ディスクトレイを閉じた状態で操作してください。また、再生中に切り換えるときは、■・⏏ボタンを押して再生を止めてから操作してください。
- 本体操作時にi.LINK機能のオン／オフができない場合があります。
- i.LINK接続が確立するまで、しばらく時間がかかる場合があります。

i.LINKランプが点灯しているときは

- i.LINK S200 AUDO OUT端子以外のすべての端子（ANALOG OUT端子およびDIGITAL OUT（CD）端子）からは音声が出力されません。

再生したい曲を探す

再生中または停止中に、次に再生したい曲を選んで頭出しすることができます。AMSとは、Automatic Music Sensor（オートマチック ミュージック センサー）の略です。



探しかた	操作のしかた
次の曲を頭出しする（AMS）	再生中、ジョグダイヤルを右に回す。（リモコンでは、⏭ボタンを押す。）
再生中の曲または前の曲を頭出しする（AMS）	再生中、ジョグダイヤルを左に回す。（リモコンでは、⏮ボタンを押す。）
曲番で直接選ぶ（ダイレクト選曲）	ジョグダイヤルを回して聞きたい曲番を選ぶ。（リモコンでは、聞きたい曲まで、⏮/⏭ボタンを押す。）

ダイレクト選曲で探す

曲番を数字ボタンで入力する。

ダイレクト選曲で11曲目以降を入力するには

1. >10ボタンを押す。
2. 数字ボタンを使って、10の位、1の位の順番で曲番を入力する。0を入力するときは10/0ボタンを押す。

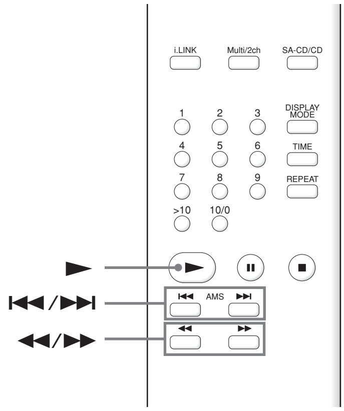
   例：　30曲目を選ぶとき　>10 → 3 → 10/0
   　　　100曲目を選ぶとき　>10 → >10 → 1 → 10/0 → 10/0

ご注意

総トラック数が100曲以下のときに>10を2回押すと、元の表示に戻ります。

再生したい部分を探す

再生中または一時停止中に、曲の中の聞きたい部分を選ぶことができます。



聞きながら探す（サーチ）

1 再生中、◄◄/►►ボタンを押したままにする。
再生音が断続的に聞こえます。

2 聞きたい部分に近づいたら、ボタンをはなす。
ふつうの再生に戻ります。

時間表示を見ながら探す（高速サーチ）

1 一時停止中、◄◄/►►ボタンを押したままにする。
再生音は聞こえません。

2 聞きたい部分になったら►ボタンを押す。
再生が始まります。

ご注意
極端に短い曲が連続している部分は、正常にサーチできない場合があります。

再生開始時間を決めて探す（タイムサーチ）

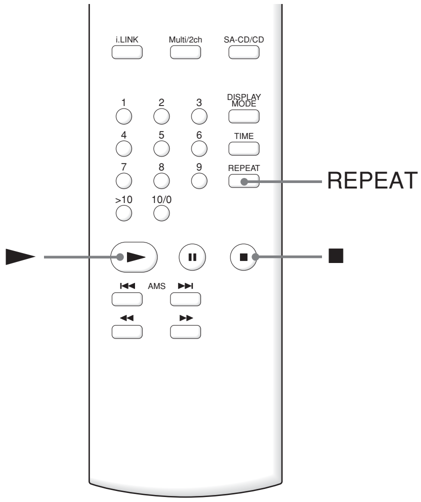
1 停止中に、|◄◄/►►|ボタンを押して、聞きたい曲を選ぶ。

2 ◄◄/►►ボタンを押したまま、表示窓を見ながら、再生を開始する時間を決める。
はじめに►►ボタンを押すと曲の頭から、◄◄ボタンを押すと曲の終わりから設定できます。

3 ►ボタンを押す。
タイムサーチが始まります。

繰り返し再生する

ディスクの全曲または1曲だけを繰り返し再生します。



ご注意
全曲リピートと1曲リピートのどちらを選んでいたかは、本機の電源を切ったり、電源プラグを抜いたりしても記憶されています。

全曲を繰り返す（全曲リピート）

REPEATボタンを1回押して、►ボタンを押す。
全曲リピートが始まります。「REPEAT」が表示され、全曲リピートが始まります。

全曲リピートを止めるには
■ボタンを押す。

ふつうの再生に戻すには
「REPEAT」が消えるまで、REPEATボタンを繰り返し押す。

1曲だけを繰り返す（1曲リピート）

繰り返したい曲の再生中に、「REPEAT1」と表示されるまでREPEATボタンを繰り返し押す。
1曲リピートが始まります。

1曲リピートを止めるには
■ボタンを押す。

ふつうの再生に戻すには
「REPEAT1」が消えるまで、REPEATボタンを繰り返し押す。

その他

この章では、本機を使う上で
参考として役立つ情報を説明します。

使用上のご注意

設置場所について

次のような場所には置かないでください。

- ぐらついた台の上や不安定な所。
- じゅうたんや布団の上。
- 湿気の多い所、風通しの悪い所。
- ほこりの多い所。
- 直射日光が当たる所、温度が高い所。
- 極端に寒い所。
- チューナーやテレビ、ビデオデッキから近い所。
（チューナーやテレビ、ビデオデッキといっしょに使うとき、近くに置くと、ノイズが入ったり、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナのときに起こりやすいので屋外アンテナの使用をおすすめします。）

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。
窓を閉めるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。



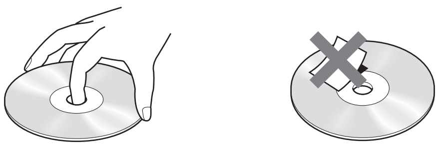
本体のお手入れのしかた

キャビネットやパネル面の汚れは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布で拭いてください。シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

ディスクの取り扱い上のご注意

取り扱いかた

- 文字の書かれていない面（再生面）に手を触れないように持ちます。
- 紙やシールを貼らないでください。



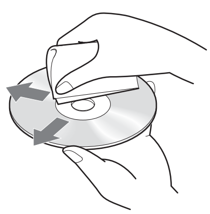
- 本機では円形ディスクのみお使いいただけます。円形以外の特殊な形状（星型、ハート型など）をしたディスクを使用しますと、本機の故障の原因となることがあります。
- 中古／レンタルCDなどでシールやのりが付着しているディスクは使用しないでください。

保存のしかた

- 直射日光が当たる所など温度の高い所、湿度の高い所には置かないでください。
- ケースに入れて保存してください。ケースに入れずに重ねたり、立てかけておくと変形の原因になります。

お手入れのしかた

- 指紋やほこりによるディスクの汚れは、音質低下の原因になります。いつもきれいにしておきましょう。
- ふだんのお手入れは、柔らかい布でディスクの中心から外の方向へ軽くふきます。



- 汚れがひどいときは、水で少し湿らせた柔らかい布でふいた後、さらに乾いた布で水気をふき取ってください。
- ベンジンやレコードクリーナー、静電気防止剤などは、ディスクを傷めることがありますので、使わないでください。

CD-R/CD-RWの再生について

表面の傷や汚れ、録音状態、また録音機の相性などの理由でうまく再生されないことがあります。また、ファイナライズされていないCD-R/CD-RWは再生できません。

CD再生時のご注意

本製品は、コンパクトディスク（CD）規格に準拠した音楽ディスクの再生を前提として、設計されています。最近、いくつかのレコード会社より著作権保護を目的とした技術が搭載された音楽ディスクが販売されていますが、これらの中にはCD規格に準拠していないものもあり、本製品で再生できない場合があります。

故障かな？と思ったら

本機の調子がおかしいとき、修理に出す前にもう1度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、ソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

トレイが開かない。

本機底面の輸送ロックねじをはずしていますか？

➡ 輸送ロックネジをはずして、ロックを解除してください（4ページ）。

i.LINK S200 AUDIO OUT端子から音が出ない。

接続したアンプの入力がi.LINKに設定されていますか？

➡アンプの入力切り換えでi.LINKを選んでください。
接続するアンプの取扱説明書もご覧ください。

i.LINK機能がオン(i.LINKランプ点灯)になっていますか？

➡ i.LINKボタンを押してi.LINK機能をオンにしてください。i.LINK機能がオンになっている時はi.LINKランプが点灯します（21ページ）。

i.LINKケーブルがはずれていませんか？

➡ 正しく接続し直してください。

付属のi.LINKケーブルを使用していますか？

➡ 市販のi.LINKケーブルを使用する場合は、3.5メートル以下で、S200に対応したi.LINKケーブルをお使いください。

対応している機器以外の機器を接続していませんか？

➡ 7ページをご覧ください。
接続する機器の取扱説明書もご覧ください。

複数のi.LINK機器を接続していませんか？

➡ 複数のi.LINK機器を接続すると、音が出ない場合があります。

数秒間音が出ない。

➡ 著作権保護技術にもとづいて機器間で認証を行っているあいだ、音は出ません。

次のページにつづく⟹

ANALOG OUT端子から音が出ない。

ANALOG OUT ON/OFFスイッチがOFFになっていませんか？

➡ スイッチをONにしてください（11ページ）。

i.LINK機能がオン(i.LINKランプ点灯)になっていませんか？

➡ i.LINK機能がオン（i.LINKランプ点灯）になっていると、アナログ出力から音が出ません。i.LINKボタンを押してi.LINKランプを消してください（21ページ）。

接続したアンプの入力切り換えは正しく選択されていますか？

➡ アンプの入力切り換えで本機の音声が出るように選択してください。

➡ 接続したアンプの入力端子が正しいか確認してください。

接続コードが外れていませんか？

➡ 正しく接続し直してください。

DIGITAL OUT（CD）端子から音が出ない。

DIGITAL OUT(CD) ON/OFFスイッチがOFFになっていませんか？

➡ スイッチをONにしてください（12ページ）。

i.LINK機能がオン(i.LINKランプ点灯)になっていませんか？

➡ i.LINK機能がオン（i.LINKランプ点灯）になっていると、DIGITAL OUT（CD）端子から音が出ません。i.LINKボタンを押してi.LINKランプを消してください（21ページ）。

スーパーオーディオCDを再生していませんか？

➡ スーパーオーディオCDの音声は、DIGITAL OUT（CD）端子から出力されません。

再生が始まらない。

表示窓に「- - - - -」が表示されている。

➡ 故障ではありません。アナログ出力を「ON」に設定しているときや、「ON」に切り換えたとき（11 ページ）、表示窓に「- - - - -」が表示されることがあります。表示が消えるまで待つと（約10秒）、再生が始まります。「- - - - -」が表示されている間、本機は高音質で再生するためにアナログ回路を安定させています。
デジタル接続で再生するときは、アナログ出力設定を「OFF」に切り換えてください（11ページ）。回路を安定させる必要がなくなりますので、再生が早く始まります。

正しいディスクが入っていますか？

➡ ディスクが入っているかどうか確認してください。

➡ ディスクを裏返しに入れていないか確認してください。文字の書いてある面を上にして、ディスクトレイにディスクを置いてください。

➡ ディスクがななめに入っている場合、ディスクを置き直してください。

➡ ディスクが汚れていないか確認してください（25ページ）。

➡ 本機で再生できないディスクを選んでいないか確認してください（20ページ）。

結露している。

➡ 結露していると、再生できないことがあります。ディスクを取り出して電源を入れたままの状態で約1時間放置し、再度電源を入れ直してから再生を始めてください。

スーパーオーディオCDとCDで再生時の音量が異なる。

本機ではスーパーオーディオCDとCDの出力レベルが異なります(21ページ)。

➡ アンプなどでボリュームを調整してください。

リモコンで操作できない。

リモコンと本体のあいだに障害物がありませんか？

➡ 本機が見える位置からリモコン操作してください。

本機の表示窓に向けて操作していますか？

➡ 本機の表示窓に向けて操作してください。

リモコンの乾電池が消耗していませんか？

➡ 新しい乾電池と交換してください。

メッセージ表示一覧

お使いになっているとき、状況により、メッセージが表示されます。意味は下の表のとおりです。

メッセージ	意味
C 11	ハイブリッドディスク以外のディスクが入っているときにSA-CD/CDボタンを押した。
C 12	2チャンネルのみが記録されたスーパーオーディオCDディスクが入っているときにMULTI/2CHボタンを押した。
C 13	マルチチャンネルのみが記録されたスーパーオーディオCDディスクが入っているときにMULTI/2CHボタンを押した。
C 14	i.LINK出力が選ばれていないときにMULTI/2CHボタンを押した。またはCDあるいはハイブリッドディスクのCDレイヤーが選ばれているときに、MULTI/2CHボタンを押した。
C 15	i.LINK出力が選ばれていないときに、アナログおよびデジタルすべての出力設定をオフにした状態で再生しようとした。またはi.LINK出力が選ばれていないときに、アナログ出力をオフにした状態でスーパーオーディオCDを再生しようとした。 ➔ i.LINK出力に切り換えるか、使用する出力端子をオンに切り換えてください。
C 16	再生／一時停止中にi.LINKの出力設定を切り換えようとした。 ➔ 停止してから切り換えてください。

エラーコード表示一覧

お使いになっているとき、状況により、エラーコードが表示されます。意味は下の表のとおりです。

エラーコード	意味
Err 01	再生できないディスクを入れている。
Err 02	ウォーターマークの不正なディスクを入れている。
Err 03	i.LINKのバス（通信経路）が混み合っているため、本機から信号を出力できない。
Err 81	外来ノイズの影響で、内蔵しているマイコン間の通信に失敗した。
Err CL	MASTER CLOCK切換スイッチをWORD SYNC INにしているが外部クロックの入力がない。 ➔ 外部マスタークロック機器を接続し、適切なクロック信号を出力してください。 ➔ MASTER CLOCK切換スイッチをWORD SYNC IN以外に切り換えて、本機の電源を入れ直してください。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう1度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービス窓口へ

お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にある近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間の経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社では、ステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。なお、補修用性能部品の保有期間は通商産業省の指導にもよるものです。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

- 型式：SCD-DR1
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日

主な仕様

SCD-DR1

スーパーオーディオCD再生時

再生周波数範囲	2Hz〜100kHz
周波数特性	2Hz〜50kHz（–3dB）
ダイナミックレンジ	110 dB以上
全高調波ひずみ率	0.001%以下
ワウ・フラッター	測定限界値（±0.001% W. PEAK）以下

CD再生時

周波数特性	2Hz〜20kHz*
ダイナミックレンジ	100dB以上*
全高調波ひずみ率	0.0017%以下*
ワウ・フラッター	測定限界値（±0.001% W. PEAK）以下*

＊　JEITA（電子情報技術産業協会）の規格による測定値です。

出力端子

端子名	端子形状	出力レベル	負荷インピーダンス
ANALOG OUT −スーパーオーディオCD再生時	ピンジャック	（50kΩ時） 1.8Vrms	10kΩ以上
−CD再生時	ピンジャック	2.8Vrms	10kΩ以上
DIGITAL OUT OPTICAL（CD）*	角形光コネクタージャック	–18dBm	発光波長 660nm
DIGITAL OUT COAXIAL（CD）*	同軸コネクタージャック	0.5Vp-p	75Ω
DIGITAL OUT BALANCED（CD）*	バランスジャック	――	110Ω

＊ CDの音声のみ出力

入力端子

端子名	端子形状	入力レベル	入力インピーダンス
WORD SYNC IN	BNCコネクター	2.5V	75Ω

i.LINK部

ピン数	6ピン
転送スピード	S200（最大データ転送速度 200Mbps）
伝送プロトコル	A／Mトランスミッションプロトコル

信号フォーマット（出力）

- スーパーオーディオCD*（DSD PLAIN）
- 2チャンネルリニアPCM（IEC 60958-3）
サンプリング周波数　44.1kHz

＊ DTLAのコピー・プロテクション技術（Revision 1.2）に対応

電源・その他

電源	AC 100V、50/60Hz
消費電力	22W
最大外形寸法	340×140×465mm （幅／高さ／奥行、最大突起部含む）
質量	約 19.0kg（電源コード含む） 約 18.5kg（電源コード含まず）

付属品

4ページをご覧ください。

仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

- 主なプリント配線板にハロゲン系難燃剤を使用していません
- 主なはんだ付け部に無鉛はんだを使用
- キャビネットにハロゲン系難燃剤を使用していません

索引

五十音順

アルファベット順

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などは
ホームページをご活用ください。

http://www.sony.co.jp/support

使い方相談窓口

フリーダイヤル・・・・・・・・・・・・・・・・0120-333-020
携帯電話・PHS・一部のIP電話・・・ 0466-31-2511

修理相談窓口

フリーダイヤル・・・・・・・・・・・・・・・・0120-222-330
携帯電話・PHS・一部のIP電話・・・ 0466-31-2531

※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

FAX（共通） 0120-333-389

左記番号へ接続後、
最初のガイダンスが
流れている間に
「306」＋「#」
を押してください。
直接、担当窓口へ
おつなぎします。

ソニー株式会社　〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

Printed in Japan